

季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〈第四四〇号〉

清明

四月四日

## 御園祭

伊勢神宮の祭典に供える野菜や果物を栽培する専用の農園を「神宮御園」といいます。明治時代、五十鈴川の河口に近い伊勢市二見町溝口におよそ一、九ヘクタールを開墾し、開園されて以来、毎日、栽培された野菜や果物が外宮に運ばれ、日別朝夕大御饌祭に供えられています。

春分の日、神宮御園ではうるわしく農作物が栽培されるように祈る御園祭が行われました。神宮御園の一角に設けられた祭場には、神宮大宮司、伊勢市長をはじめ、三重県農業試験所など農業関係者も参列してお祭りです。この日は、風は冷たいものの、晴天に恵まれ、日差しが降り注ぐ中で、お祓いにより祭場と神職、参列者が浄められました。そのあと、案の上に神饌(食)が供えられました。私からも、尻尾がピンとはねた鯛や真っ赤な伊勢海老、御餅、それに赤い林檎が見えました。

神宮御園ではおよそ五十種類の野菜と果物が栽培されていますが、林檎は難しく、長野県のものを使っています。祭典では供える野菜と果物が決まっており、それを滞りなく育てることをしています。天候が大きく変化する昨今、大変なことがうかがえます。今年五月からは通常の祭典に加えて、遷宮諸祭の山口祭が始まります。諸祭に供える野菜や果物もこの神宮御園でととのえるのです。遷宮の祭典を支える農園でもあるのです。

祭典は、黄色の装束を身に着けた山口剛作長が、忌鍬という清らかな鍬を手にして、耕作の所作を模して三回振り下ろし、終了しました。

季節は「四月来る」。新年度、新学期がスタートしました。

四月始まる豁然と田がひらけ 相馬遷子

豁然は視界が大きく開けるさま。四月、田畑でも農耕作業が本格的に行われます。

文 千種清美



# おかげの里便り

## おかげ横丁

### ○ 藍染ともめん展

「藍染」は人類最古の染料の一つで、日本では木綿とともに生活に根付いて来ました。土づくりから始まり、藍草の栽培、乾燥・発酵させた「すくも」作りなどこだわりぬいた藍染をご覧ください。

また、三重県の伝統工芸品である「松阪木綿」「伊勢木綿」「市木木綿」の製品を取り揃えます。それぞれ特徴の異なる県内3地域の木綿織物の魅力をお楽しみください。

日 時／4月10日(木)～4月21日(月) 10:00～17:00

場 所／赤福 本店別店舗

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

## 五十鈴塾

### ○ 御師って何者？～その実像を探る～

皆様も「御師」という名前は既にご存知のことと思います。また、「御師」のことに  
ついて講演を聴いたり展示を見たこともあるでしょう。でも何かどうもはつきりしな  
い、よく分からないという感じがありませんか？丸岡さんは、御師邸の保存とともに  
「御師」の歴史や文化を紹介する活動を行っており、この講座では、皆さまが感じて  
いる「御師」に関するモヤモヤとした疑問をスッキリさせて、その実像を少しでも  
理解していただけるよう解説してまいります。

日 時／4月8日(火) 13:30～15:00

講 師／丸岡正之 (NPO法人旧御師丸岡宗大夫邸保存再生会議監事)

参加費／一般 1,500円 会員 1,000円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

## 五十鈴茶屋

### ○ 五十鈴茶屋節気菓子

はな  
花

いかだ  
筏

川面に舞った桜が、岸辺に着かず離れず筏のように浮かび、  
流れにまかせて漂い続ける、古人も詠んだその風景。粒餡を  
包んだ求肥に桜の姿をとどめて、花のなごりに思いをこめました。

こちょう  
胡蝶の舞

神宮では毎年四月、神恩に感謝を捧げ、国民の平安を祈る、春の  
神楽祭が行われます。古式ゆかしく演じられる「胡蝶」の舞の  
装束を白あんを包んだ羊羹で表現しました。

じんぐう  
神宮つつじ

神宮にもつつじが咲く頃となりました。  
山芋あんのきんとんで粒餡を包み、木々の緑と赤いつつじが見せる  
鮮やかな色彩を表現しました。